

# 1. 評価結果概要表

平成 20 年 6 月 16 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0171600273		
法人名	株式会社 ティーシーエイ		
事業所名	グループホーム 巴		
所在地	檜山郡厚沢部町滝野 5 1 8 - 1 (電 話) 0139-64-2002		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】 (20年1月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 3 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	22人, 非常勤 0 人 常勤換算 14.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費、16,000円 冬季暖房費 6,000円			
敷 金	有 ( 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有りの場合償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	道立江差病院 厚沢部町立国保病院 小山歯科
---------	-----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム巴は、自然豊かな田園の中に位置している。職員は事業所の各種委員会に所属し、事業所研修、外部研修に積極的に参加できる体制を築き、専門的知識、技術の向上に努めながら、地域社会へ貢献するため研鑽を重ねている。事業所の雰囲気は大変明るく笑い声が絶えず、管理者・職員・利用者は家族の様な関係が築かれ、真心で接している様子が伺える。かかりつけ医と協力医との医療の連携体制も整い、常勤の看護師による日々の健康管理など、利用者は尊厳を守られながら、安全、安心の中で過ごされている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、改善点は無かったが、日常的にケアの反省点をチームで話し合い、改善計画シートに気がついたことを記入し、サービスの向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、毎朝のミーティングや月1回のケア会議で意見を出し合い、自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、6回実施しており、参加者からは活発な意見があり、評価を公表し、サービスの向上に活かしていると共に、地域との交流を通して認知症の啓発に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が意見、苦情を表出しにくい時の為に、入居時に公の外部機関の連絡先を説明したり、面会時に声かけをして、話しやすい雰囲気作りに工夫している。意見や要望がある時は、チームで検討し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は散歩の時に近くの神社で参拝したり、町内会の敬老会などの行事に参加している。又、近くの店での外食も楽しんでいる。地域住民の協力での防災訓練、非難訓練の実施や、近隣の農家から時々野菜を頂くなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念に加え、地域密着型サービスの意義を理解し、住み慣れた地域で、その人らしく普通の暮らしを支える、柔軟な支援を事業所の柱として作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング、月1回のケア会議の中で理念を確認し、共有しており、事業所の目に付きやすい所に明示している。		
<b>rinenn</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の敬老会などの行事に積極的に参加したり、近隣の農家より野菜を頂いたり、近くの店で外食を楽しむなど、地域の人との交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、評価の意義や目的を全職員に伝え、日常的ケアの反省点などを話し合い、改善計画シートを作成し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6回実施しており、参加者の意見交換は活発であり、評価結果の公表、報告などを行いサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は居宅介護支援事業、訪問介護事業、介護タクシー等も行っているところから、常に町担当者とは、運営の実態や情報を共有しながら、連携を強化している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを定期的に発行し、ケース記録を個々に開示し報告している。金銭の使途明細は月1回出納帳を送付し、確認頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、意見・苦情を表出できる公の外部機関を案内し説明している。出された意見、要望は、朝のミーティング時に職員全員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を最小限に抑える努力をしている。異動があるときは、引継ぎに十分な期間を設けて、スムーズに移行できる配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員を段階に応じて育成するために、事業所内研修推進委員会を設けて勉強会を開催し、チームで取り組んでいる。外部研修は、年間計画を立て確保し、参加者は研修報告書を作成し、全職員が自由に閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ会議など、地域同業者との交流に加え、実践的交流や連携は渡島の同業者とも盛んに行い、質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者が多いので、家族と相談し、お茶や食事を一緒にして、馴染みの関係をつくり、納得した上でサービスを利用する工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が出来ること、出来そうなこと、を見極め、見守りながら支援している。利用者が自分の力を活かした時には、職員は感謝の言葉を伝え、共に支え合う関係性を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の把握が難しい利用者には、日々の言動、表情などに気を配り、カンファレンスの中で全職員で話し合い、本人の意向を大切に支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、家族の要望を聴き、全職員で話し合い、一部センター方式を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行っているが、月1回のケース会議の中で職員の情報を確認し、状態の変化のある時は、家族と話し合い随時見直しを行っている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望で、通院介助、外出支援、など臨機応変に対応するために、日勤職員を十分に確保し、支援体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の医療が受けられている。遠方のかかりつけ医については、家族が同行すること、不可能なときは、職員が代行することなど、契約時に説明し、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の急変時における医療処置の対応について、主治医、協力医療機関と連絡をとり、適切な措置を講ずることを家族に説明し、同意を得ている。常勤看護師による勉強会も実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は、所定の場所に保管・管理されている。職員は、ミーティングのときに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の言動、表情に気を配り、本人の気持ちを尊重して、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を大切に献立を作成し、職員と一緒に食事の準備、盛り付け、後片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や希望に合わせて、職員のローテーションを工夫し、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から本人の生活歴を把握して、編み物、書道など、得意分野で力を発揮してもらえるよう支援しており、地域の行事参加等の楽しみごとにも利用者と相談して行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近くの神社に参拝、外食、散歩、ドライブなど希望に沿った支援をしていることを写真などで確認できている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開放されているが、来訪者や利用者の出入りを察知できるようにメロディーが流れるセンサーが設置されている。夜間は、防犯のために施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域住民の協力で防火訓練、避難訓練、夜間想定訓練など年2回実施し、記録している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、カロリーなどは、町の栄養士の指導を受けている。水分摂取量は必要な利用者のみ記録をしているが、看護師は、全利用者の記録をとる準備をしているので、実施することを期待する。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は廊下がなく、事務所、食堂、居間が続いており、明るく開放的な造りである。ベランダからは、畑や田んぼが見えて、季節の移り変わりが一目で感じられる。台所の前の和室は、職員の休憩室に利用していて、常に利用者を見守りながら自由な暮らしを支えられる、居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族が相談し使い慣れた日用品があり、花や家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。